

## 真宗大谷派

### ビハール大垣発足 生死を考える講座

大垣教区の有志が10月に「ビハール大垣」を発足させる。医療関係者と共同して、終末医療やグリーフケアなどに関わりながら、講演とシンポジウムの「生と死を考える連続講座」を開講する。宗派内に限らず広く会員を募る。

これまでも同教区内でビハールに関する取り組みはあったが、昨年9月から医療関係者らの話を

聞く学習会を始め、さらに活動を充実させるため、発会を決めた。

代表の五辻文昭・本浄寺住職は、僧侶が現場でケアに関わることにとど

まらず、「従来の教化の

在り方を見直す意味もある」と話す。「今までのように、お寺に来てもらい、教義を知らない人、何かを教えるというスタイルではない。相手の悩みを聞き、相手の土俵で

基本的に信頼関係をつくること。それは、こちら

でもある」。将来は、寺院を利用した介護や共同生活ができる施設の開設にまで至ればと願っている。

副代表は、在宅医療などに取り組む医師で、大谷派僧侶の沼口諭氏。事務局は五辻代表の自坊・本浄寺。

発会記念講演を10月21

日午後6時から、岐阜県大垣市の大垣別院で開催。講師は、京都大こころの未来研究センターの

カール・ベッカー教授。「連続講座」の日程と講師は次の通り。12月13日

日「上智大グリーンケア研究所元所長の高木慶子氏▽3月11日「シンポジウム」家族を介護して」

▽4月8日「東北大学院准教授の谷山洋三氏▽6月10日「龍谷大教授の

田畑正久氏▽8月12日「大谷大教授の鷺田清一氏▽9月9日「シンポジウ

ム「看護・介護に携わる者として」。いずれも午後6時から、大垣別院